

141mm

C'

Greetings

今日は、ご多忙のところご来場いただきありがとうございます。

西鎌倉混声コーラスは、昨年初からの新型コロナ感染拡大で、約半年間、練習活動の停止を余儀なくされました。昨年の8月から、練習場所の利用制限を受けながらではありますが、練習の門戸を開けることを選択し、手指の消毒、検温はもちろん、練習室内の二酸化炭素濃度を測定し、環境を整えながら練習を続けて参りました。

本日、第一ステージのステージタイトル 歌わずにいられない は本日の演奏会のメインテーマに位置づけています。コロナの感染が広がり、集うこと、歌うことを制限された一年半余。指揮の荒井先生が選曲された曲に思いを込めて歌います。児島先生もそれまで練習してきたモーツァルトのミサ曲から、鈴木憲夫作曲のRequiemに変更し練習してまいりました。お楽しみいただければ幸いです。

最後に、本日、賛助出演してくださった、混声合唱団Bella Voce、混声合唱団 鎌倉コールの有志の皆様そして、本日までご支援いただいた皆様に感謝申し上げます。

本日はありがとうございました。

演奏会にあたって

児島 百代

西鎌倉混声コーラスでは、昨年8歳を迎えた私を励ますために「米寿記念コンサート」を企画してくださったのですが、コロナのために延期となり、本日ここに、卒寿記念演奏会として開催することになりました。お出かけくださいました皆様に心から御礼申し上げます。

西鎌倉混声コーラスとの25年間一古今の名曲を皆で心を合わせて創り上げて参りました。

そして今春、作曲家の鈴木憲夫氏が「Requiem」を作曲されてウィーンの大聖堂で初演されたことを知り、今日演奏させて頂くことといたしました。コロナの影響で練習が不足と思いますが、私の関係している「混声合唱団 Bella Voce」、「混声合唱団 鎌倉コール」の賛助出演を得て、心から深い祈りのうちに演奏したいと思います。

荒井 恵美

今日は秋深まる候、児島百代卒寿記念定期演奏会にご来場くださいまして誠に有難うございます。

児島先生のご指導を仰いでから、長い年月が流れました。その間、児島先生の精神を伝える源なる宗教曲の数々や世俗といえる自由な喜びを歌う曲に触れ、又時には革新的な曲にも挑戦する機会を頂いたり、と私達を幅広い合唱の世界へといざなって下さいました。目下の新型コロナウイルスというとんでもない試練に遭うと、これまでいかに素晴らしい曲とその音楽を享受することが出来たかという宝に気づかされます。“声と声が重なりハーモニーが生まれる”・・・児島先生が大事にされている“ハーモニー”。この根源的な喜びに今一度丁寧に向き合い、共鳴するものに集中してみる。そんな豊かなものを、私達はこれからも大切にして参りたいと思います。

141mm

B'

Program

I 歌わずにいられない

Le Baylère J. Cantelobe 作曲
(オーヴェルニュの歌) G. Richards 編曲

And so it goes BILLY JOEL 作曲
(過ぎ去りて、そして今は) BOB CHILCOTT 編曲

How can I keep from singing Robert Lowry 作曲
(歌わずにいられない) Mat & Adam Pod 編曲
荒井恵美 訳詞

II 混声合唱とピアノのための

民話 鈴木 憲夫 作詩・作曲

指揮 荒井 恵美 / ピアノ 田中 久美
民話語り 児島 百代
合唱 西鎌倉混声コーラス

< 休憩 >

III 混声合唱のための

Requiem 鈴木 憲夫 作曲

Introit et Kyrie / Offertorium
Sanctus / Pie Jesu
Agnus Dei / Communio
Libera me et Antiphona

指揮 児島百代 / ピアノ 田中久美

ソプラノ ソロ 荒井 恵美
バリトン ソロ 佐藤 望

合唱 西鎌倉混声コーラス
混声合唱団 Bella Voce
混声合唱団 鎌倉コール

Program Note

Le Baylère -バイレロ- (オーヴェルニュの歌) は、元々カントループが故郷のオーヴェルニュ地方の民謡を元に1920年代に編曲した独唱曲集の1曲です。羊飼いの若者と娘が広い空間を隔てて山の頂きから別の頂きへ愛の歌を歌い交わす素朴な民謡に、カントループは山塊の空間、時空の無限を感じさせる多彩で美しいオーケストラ伴奏を付けていますが、チルコットが合唱用に編曲したこの作品もまた、チルコット独特の和声で空間や距離感を醸し出している美しい曲です。

And so it goes は、Billy Joelの曲の中で、兼ねてからとてもコラール的なスタイルだと思っていました。センシティブな恋人が新しい恋人に、過去の恋人との傷跡を癒す強く安全な心の聖域について留まってしまう自分を不器用ながら打ち明けるラブソングです。“恋人”でなく自分の近しい“大切な人”へと置き換えると一層深みが増す、一度聞くと心にずっと残る名曲です。

A'

138mm (内側に折り込む面)

How can I keep from singing コロナウイルス感染により、世界に重い幕が垂れ込めてしまったとき、何とかして私自身も音楽によって乗り越えたいと思いました。そして人々にもそれを伝えたいと。“アウトプット”と言う言葉が流行りましたが、合唱は正に脳・心・身体に良いアウトプットです。一人で歌うより二人、そして二人から合唱へとハーモニーが広がれば勇気も100倍！だから皆で歌おう！！・・・そんな思いに相応しい曲を探し出逢ったのが“How can I keep from singing”です。原曲は聖歌ですが、団員自らの言葉としたかったので真理がクローズアップするような日本語訳としています。

民話 昔ばなし、各地方に語り継がれてきたお話しを作曲家鈴木憲夫がまとめた曲集。この曲集には 若返りの水 / 動物たち / でんせつ / 鬼とおじいさん / 雪のふる夜の5曲が収められており、各曲の中には人や動物たちが生き生きと表現されている。今回はその中から、児島先生の語りと共に3曲を選んで演奏する。

Requiem レクイエムはもともとカトリック教会で、死者の魂安かれと神様にお祈りするためのミサ曲であるが、芸術作品としても古来数多くの作曲家によって取り上げられている。とりわけ、モーツァルト、ヴェルディ、フォーレ作曲のレクイエムは、世界三大レクイエムとしてもっともよく知られている。

今日演奏する鈴木憲夫作曲の「混声合唱のためのレクイエム」は、教会の典礼様式に従って構成、作曲されている。最初の「入祭唱」(Introit)において、「主よ、永遠の休息を彼らに与えたまえ」と唱え、最後の「公唱」(Antiphona)に於いて、「彼らが平安のうちに憩わんことを、アーメン。」と締めくくる。作曲者の鈴木憲夫は「祈りの世界」を自身のライフワークとして掲げているが、この作品を一つの頂点を為すもの、と捉えている。

初演は2019年10月、ウィーンのシュテファン大聖堂主催公式奉納演奏会においてであり、作曲者自身の指揮によって管弦楽伴奏で行われている。

歌 詞 (日本語訳)

第1ステージのみ

<p>Le Baylère (オーヴェルニュの歌)</p> <p>バイレロ、バイレロ、バイレロ、 “川ぞいの羊飼いさん、 楽しそうじゃないわね？” レロ、レロ、レロ、バイレロ ロ！ “僕はそんなに楽しくないんだ” レロ、レロ、レロ、バイレロ ロ！ “羊飼いさん、谷の川のほとりで、 毎日どうやって過ごすの？” レロ、レロ、レロ、バイレロ ロ！ “じゃ聞いて、僕は君を探しに行くよ” レロ、レロ、レロ、バイレロ ロ、 レロ、レロ、バイレロ。 (訳 荒井恵美)</p>	<p>And So It Goes (過ぎ去りて、そして今は)</p> <p>誰にでも心の中に一つ安心できる 部屋があるものさ 神様が守ってくれる安心できる頑丈な部屋 別れた恋人との にかい思いを癒し 新しい出逢いを待つための場所 僕は君に話すとき注意深く 言葉を選んだものさ 君はありのままに答えてくれたね でも僕は君に言い過ぎたかもしれない だから僕は黙り込んでいたのさ 僕がバラを手にして感じたのは 棘の痛みだけさ、美しきなんて分からない 愛ってそういうものなんだ、 そうして過ぎていくものなんだよ そして君だってじきにそうなると思うよ でももし僕の言葉足らずで 君が去っていくなら それは僕にとって最大の間違いだ だからいつでも僕の心の中の部屋は 開けておくよ 君になら傷つけられてもかまわない 僕がまふたを閉じたままにいるワケは これまでの人生すべてを思い返しているのさ 愛ってそういうものなんだ、 そうして過ぎていくものなんだよ 君はそれを分かってくれるたった一人のひと だからもし僕が選べるなら 君と一緒にいたい でもそれは僕一人では決められないこと、 君がきめる事さ 君になら傷つけられてもかまわない 愛ってそういうものなんだ、 そうして過ぎていくものなんだよ 君はそれを分かってくれるたった一人のひと (意訳 団員S.A)</p>
--	--

How can I keep from singing
(歌わずにいられない)

地上の嘆きも 心に留めず
今ある喜び 見つめ歩こう
愛は天と地に勝る輝き
いざ誉め、歌おう
How can I keep from singing

吹きすさぶ嵐に 真実の声
果てしなく 聴こえる
それはNew creation
愛はこだまする 歌から歌へ
溢れる望みに
How can I keep from singing

空見上げ行けば この世の雲は
日に日に晴れゆく 愛あればこそ

どこかで いつでも 魂深く
奏でよう音楽を
How can I keep from singing
(訳詞 荒井恵美)